

かんかくー遊び・学び・繋がるー KANKAKU-play・learning・connection-

正会員 ○阿部夏実 ABE Natsumi

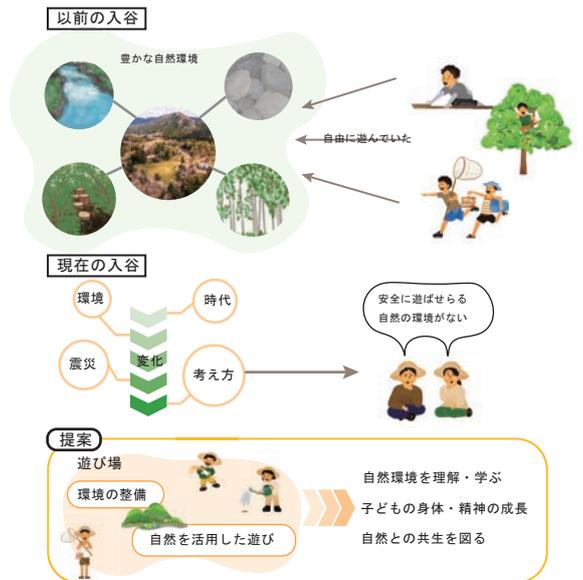
東北工業大学 Tohoku Institute of Technology



1. 背景・目的

宮城県本吉郡南三陸町は分水嶺で町が囲まれており、森里海が川で繋がり、循環する自然豊かな環境を持っている。豊かな自然の中で昔の子どもたちは、木登り、川遊びなど学年性別関係なく資源を活かした遊び方をしていた。しかし、少子高齢化、時代・震災後の変化により、現代では簡単に遊ばせられるゲーム、運動をさせようとクラブ活動に所属したり同学年かつ少人数での遊びが主流になり、自然が活用されにくい遊びに変化した。また、復興まちづくりにおいて人と自然の共生を図りながら減災に取り組むことが重要とされている。そこで本制作では人と自然の共生を図りながら、子どもが自然に触れ、自由に学び、考え、遊ぶことを目的とした空間を提案する。遊びの中にある学びは主に5つあり社会適応力、挑戦する力、創造力、身体が成長する力、感じる力である。提案するにあたり、計画予定地の選定を行った。南三陸町は震災の影響で変化が大きい志津川地区や、唯一変化がなかった入谷地区など大きく4つの地区に区分されている。そこで、今回は、自然×遊び場の提案として、自然と向き合う遊びを主とした遊び場を計画する。

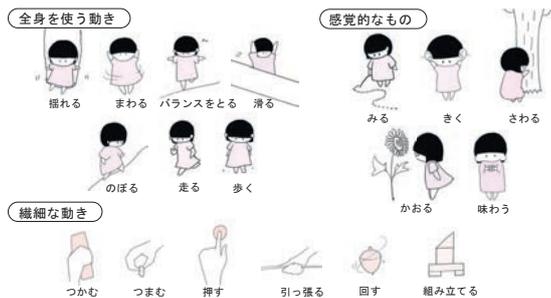
2. 入谷地区の子供の自然遊びの課題と提案



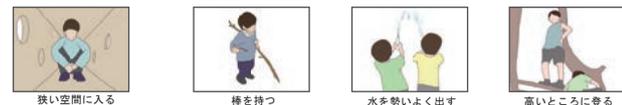
3. 遊びについて

子どもの遊びに関する行動観察調査・ヒアリング調査から、子どものワクワクする遊びの感覚をつかみ、遊びに関する行動の要素の分類を行い、遊びから得られる学びの要素を引き出した。これらをパタンランゲージに落とし込んでいく。

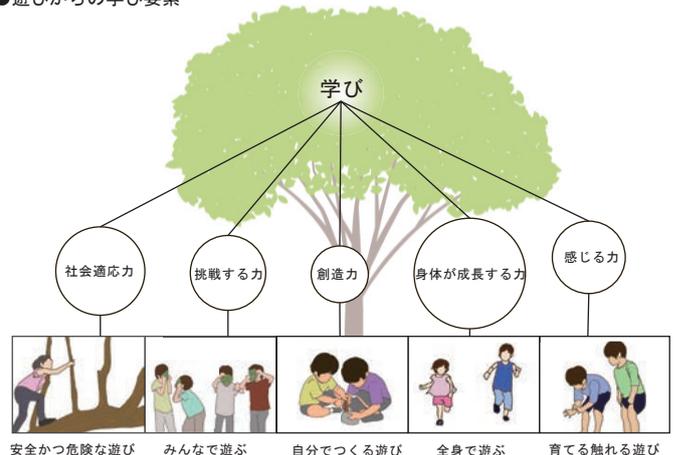
●行動調査から遊びの要素を分類



●子どもがワクワクする遊びの感覚



●遊びからの学び要素



所在地：宮城県本吉郡南三陸町入谷地区

主な用途：遊び場

敷地面積：13,887.6㎡

建築面積：66.95㎡

延床面積：66.95㎡

キーワード：子ども・遊び場・自然環境・ひころの里

Location: Iriya, Minamisanriku city, motoyoshi, Miyagi

Main Use: playground

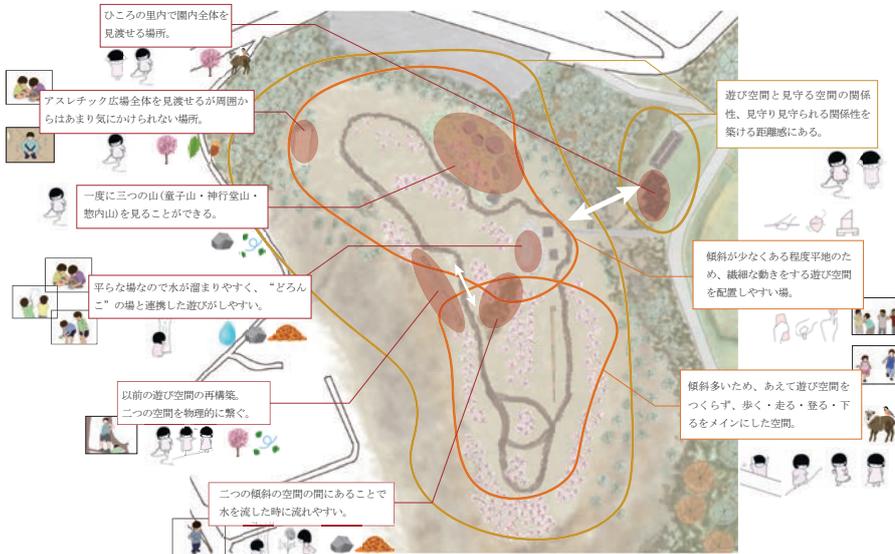
Site Area: 13,887.6㎡

Building Floor Area: 66.95㎡

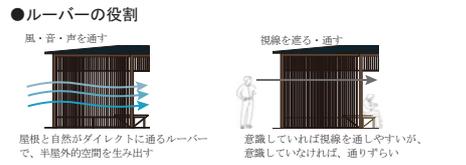
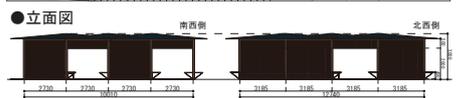
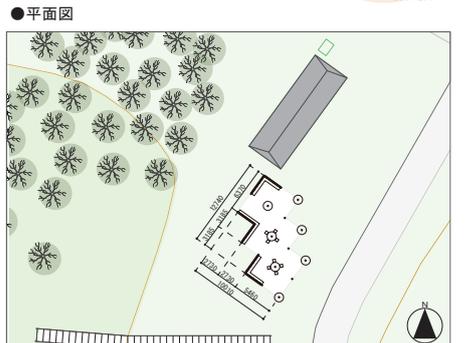
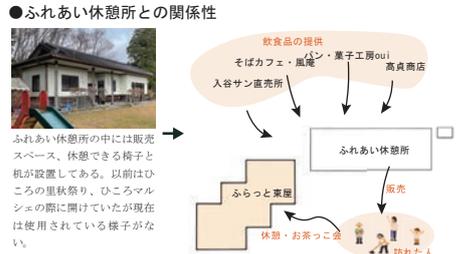
Total Floor Area: 66.95㎡

keyword: children, playground, natural environment, Hikoro-no-sato

4. パタンランゲージによる配置計画

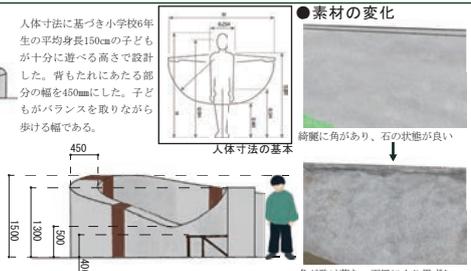
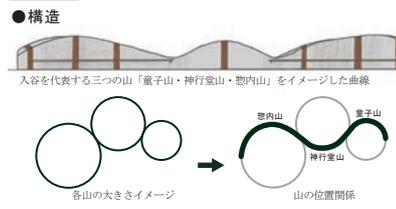


5. 休憩所 ふうと東屋 場をフラットに繋ぎ、ふうと立ち寄れる

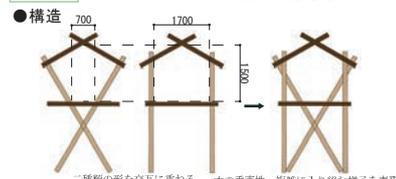


6. 遊び場

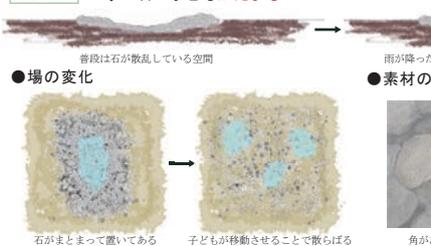
さんさん 三つの山を一望できる



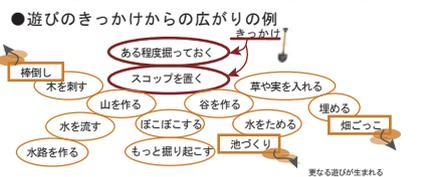
ここはし 以前のつり橋を再構築 子どもと木が共存する



たまりば 水・石・子どもがたまる



どろんこ どんこになり汚れを気にせず遊ぶ



かくれび 常に日が差し、子どもが隠れられる空間



7. まとめ

以前の入谷地区では自然を活用した多くの遊びが展開していた。子ども達もその自然環境の中で自由に遊んでいた。しかし、時代・環境の変化、震災などにより、考え方に変化が起こり、自然が活用されにくい遊び方が主流になってしまった。本計画は遊び場の環境整備、自然を活用した遊びを中心の提案を行った。そこから自然環境への理解・学びを深め、子どもの身体・精神の成長、自然との共生の仕方を見出す。今後、入谷地区の場を手がかりに、自然との共生について南三陸町全体で展開することを期待する。